

独習 Python 入門—1 日でプログラミングに強くなる!

湯本 堅隆 著, 技術評論社, 2016.

はじめに

筆者は知り合いとの関係で 7 月末に[ビブリオバトル](#)に参加することとなった。筆者 HP の[オピニオン・コラム欄](#)や筆者 Wiki の[本棚](#)を見ていただければ分かるが、読んでいる本に自己啓発的なものや文学的なものはほとんど存在せず、実学的な書籍が多い。そんな私だから文理問わず多様な人に紹介すべき本の選定にとっても苦労した。なんてことを他の参加者に話していると Python を勉強中の人があり、他の参加者も Python 興味を持っていることが分かった。最近多くの人が AI や機械学習などのキーワードに触れるようになってきている中、Python の入門書である本書を紹介してみてもいいかもしれないと考えた次第である。

アレルギーなく Python の初歩を学べます

大学の授業で C 言語や FORTRAN を学ばされたけども理解できずアレルギー症状が出た、流行りの Python を勉強してみたいけどもどこから手を付けていいか分からないという人にはピッタリの書籍である。Python という言語がそもそもとして既往の言語に比べて圧倒的に理解しやすいことに加えて、本書が初学者を意識した様々な工夫を凝らしてくれている。

本書は丁寧にも Python を用いた四則演算から変数、if 文、for 文による繰り返し関数の作成、辞書型など Python に限らず誰もが学ぶべき内容に絞って前半を構成してくれている。また、各章の末尾には練習問題が掲載されていて、ただ本を真似て書くだけでなく自分の理解レベルを確かめながら学習をすすめることが出来る。そして、Python のマスターに必要な用語の定義や解説も非常に丁寧にされており、本書を読了した頃にはワンランク上の解説書や解説サイトの内容を理解出来る力が身につく内容となっている。

本書の副題は「1 日でプログラミングに強くなる!」であり、1 日費やせば全ての内容が学べるように構成されている。しかし、私のように一日も連続したトピックで集中できない人間にとってはそうはいかない。そんな人にも本書は優しい構成となっていて、一節完結型でテーマが設定されているため 1 日 1 テーマでこつこつ勉強することが出来る。

おわりに

本稿を執筆している最中に Amazon で本書の購入時期を見てみると購入から既に 3 年が経過していた。その間に私はシミュレーションの研究で博士の学位を取得し、[学生に Python を教えるようになり](#)、今や会社でソフトウェア開発を行うまでになった。本書がそれら全ての始まりと言えよう。

Python に限らないが、プログラムの勉強で何よりも大事なことは「これを作りたい」という明確な目標を持つことである。本書を読めば有益な何かが作れるというわけではないが、何から手を付けていいか分からない人は本書に取り組むことをおすすめしたい。内容もあえて浅いところで抑えられていて初学者にはとてもお勧めできる本である。今すぐに本書を手にとることがなくとも、プログラムで何かを作りたいとなったときには Python と本書の存在を思い出していただければ幸いである。

